

令和8年7月24日

大阪府教育委員会会議 会議録

1 会議開催の日時

令和 8 年 7 月 2 4 日（金） 午後 2 時 00 分 開会
午後 2 時 45 分 閉会

2 会議の場所

委員会会議室（府庁別館 6 階）

3 会議に出席した者

教育長	水 野 達 朗
委員	中 井 孝 典
委員	有 明 三樹子
委員	尾 崎 えり子
委員	竹 内 理
委員	森 口 久 子
教育監	内 藤 孝 彦
教育センター所長	高 木 枝美子
教育総務企画課長	建 元 真 治
教育振興室長	三 宅 恭 子
高校改革課長	吉 田 晶 子
市町村教育室長	芳 野 和 宏
地域教育振興課長	泉 谷 成 昭
教職員室長	大 野 広

4 会議に付した案件等

◎報告事項1 大阪府学校教育審議会の答申について

◎報告事項2 大阪府識字・日本語教育の推進に関する基本的な方針の策定について

5 定足数確認

(教育長)

開会にあたりまして定足数を確認します。事務局いかがでしょうか。

(事務局)

本日は、教育長および委員の計6名のうち6名が出席しており、本会議が成立しておりますことをご報告いたします。

(教育長)

それでは、定足数を満たしているため、ただいまから会議を開きます。

6 議事等の要旨

(1)会議録署名委員の指定

尾崎委員を指定した。

(2)令和8年6月22日の会議録について

全員異議なく承認した。

(3)議題の審議等

◎報告事項1 大阪府学校教育審議会の答申について

【議題の趣旨説明（教育総務企画課長）】

標記について、報告する件である。

【質疑応答】

(教育長)

ただいまの説明につきましてご質問、ご意見あわせてお伺いいたします。有明委員。

(有明委員)

ご説明ありがとうございます。事前説明のときにも申し上げましたが、「今後の府立商業系高等学校のあり方」の「何々する人」というカテゴリーは、必ずしも商業系高校だけで必要な要素ではありません。では商業系高校では何が分かるのかというと、私の中ではファイナンス・リテラシー、お金の流れのことがわかる人材ということで、これは学校教育の

中ではなかなかできていないところなので、非常に企業としてはありがたいです。せっかく商業系高校なのですから、力を入れていただけると良いなと思っています。

あともう一点ですが、先日、新聞で東京都の教育委員会が広告を出していました。何の広告かというと、「AI に取って代わられない仕事があります」、「これを学べるのは工科高校です」ということと、東京都の地図と一緒に工科高校の校名を列挙していました。こういうわかりやすさはすごく良いなと思いました。工業系高校でもいろいろな学科があるので、必ずしも全てがAI に取って代わられないというわけではないかもしれませんが、今、いわゆる工事現場等で働く方々はAI には代われないと証明されていて、お給料がどんどん上がっています。そういうことをひとことの文言でちゃんと連想させ、東京都にはそういう知識やスキルを支える高校がこれだけあります、と出しているのは、マーケティング上も非常にわかりやすくて良いなと思いました。一つの高校の特色というのも大事ですが、やはり、何が分かる人を育てますということを、難しい説明をたくさんするのではなくて、もっとシンプルにしていくのが大事かと思います。ここにある説明は、とても丁寧で良いのですが、やはり何がわかる人を育てる、ということはちゃんと伝わるようにするのが大事かと思いますので、付け加えさせていただきます。以上です。

(教育長)

ご意見ありがとうございます。他はいかがでしょうか。竹内委員。

(竹内委員)

事前の説明のときにもお話させていただきましたが、「商業高校が育成をめざす人物像」に関して質問です。先ほど有明委員からも言及がありましたが、この4つの人物像というのは、他のどの高校でも一緒ではないかと思います。また「育成をめざす資質・能力」ですが、こちらもどの高校においても重要なことが書かれています。先ほど説明の中で、商業科ならではのものを大切にしていくということが述べられておりましたので、育成すべき資質や能力の中に、その商業科ならではのものをなぜ入れなかったのかというのが疑問で、少しその辺りについてご説明をいただければと思っています。これが一点目です。

もう一点は、教員の再教育の視点を含んでおり、先生方に勉強していかなければいけないというご指摘は、非常に重要なポイントだと理解しています。ただ、先生方が1年もしくはそれ以上の期間、企業に行って勉強しないとなかなか身に付けにくいような能力の話が入っているのではないかと思います。実務経験者の方と、ずっと教員をやってきた人たちとの棲み分けをしっかりと考えていかなければいけないかと考えています。そこで5番目の「教員の役割・専門性の育成」のためにどういうことをお考えになっているのか聞かせていただければと思います。

三点目ですが、社会と繋がっていくということは何よりも大切なので、これは素晴らしいアイデアだと思います。ただ、それと同時に、社会に出ていくということは、子どもたちをし

っかり守っていかないといけないというポイントがあります。社会、企業、大学と様々に繋がって行くとすれば、なかなか性善説では物事がうまくいかないケースも出てくるかと思っています。この点は後々考えていけばいいことかもしれませんが、ご検討下さればと思います。一番目、二番目は質問ですが、三番目は意見として考えていただければと思います。

（教育長）

ありがとうございます。それではご質問いただいた一点目が「育成をめざす資質・能力」でなぜ商業系高校ならではのものを入れなかったのかというところ。そして二点目が、教員の専門性をどう育成していくのか、この二点について。高校改革課長。

（高校改革課長）

ご質問ご意見ありがとうございます。

まず一点目、審議会での議論なので、私からの発言は推測の域になってしまいますが、審議会の中では、この先の将来を見据え、子どもたちに共通してこういう能力が必要になるだろう、その中で、実業高校は、実体験の学びを行うこととなるため、学びの手法として、商業教育ならではの経済的視点を入れた、ビジネス感覚の醸成への教育が必要であるという展開で議論いただいたのではないかと考えています。

二点目、教員の研修にご意見をいただきましたが、まさにこの部分はこれからしっかりと検討していきたいと思っています。

（教育長）

竹内委員、いかがでしょうか。

（竹内委員）

ご説明ありがとうございます。審議会での議論ですので、説明とか踏み込んだことを言いにくいこともあるかと思っています。その点は理解できますが、商業系の高校の特色という意味においては、どのような能力を商業系の学校に行けば身に付けられるのかというポイントは決して外してはいけないと思っています。一般的な能力であれば、普通科でも身につけることができるので、商業系ならではのポイントを表に出さないというのは、私の理解できないところです。これは私の意見として表明しておきたいと思っています。

（教育長）

ご意見ありがとうございます。他の委員の皆様いかがでしょうか。はい、高校改革課長。

（高校改革課長）

ご意見ありがとうございます。審議会答申を踏まえて、これから新しい商業系高校をどうし

ていくかという検討を深めていきますので、その際には商業系高校ならではの特色をしっかりと打ち出せるようにしてまいりたいと思います。

（竹内委員）

よろしくお願いいたします。

（教育長）

それでは他の委員の皆様はいかがでしょう。中井委員。

（中井委員）

この答申そのものについては本当に素晴らしい内容だと思います。盛りだくさんと言いますか、これだけのことが全部できるのかということもありますが、これをめざすということが大事だとは思っています。

先ほど他の委員もおっしゃっていたように、ここに書いてあることは商業系高校に限りません。しかし、その中で、商業系高校ならではの教科である簿記や情報処理、マーケティングなどの専門教育の部分、これを今後どのようにこの答申に結びつけていくか、要するにカリキュラムの組み立てですが、そこをこの答申に基づいてしっかりしたものを作っていたきたいと思います。

めざす人物像についても商業系高校に限りませんが、ただ「アントレプレナーシップ」、つまり起業家精神ですが、商業系高校に特化していけば、これにつながるところもあるかと思っています。個人的には起業家がどんどんアイデアを持って起業していけば面白いなという思いがありますので、この辺りは商業系高校の強みや特色を活かして、さらに進めていただけたらと思っています。

答申そのものは大変素晴らしいですが、現実には学校の中でどう繋げていくかということについて考えていただいて、新しい商業系高校を作っていただきたいと思います。以前も申し上げましたが、従前のイメージを打破するような高校を作っていただきたい。商業系高校にしか行けないのではなくて、本当に行きたいから商業系高校を選んだ、というような高校を作っていただきたいと思います。以上です。

（教育長）

ご意見ありがとうございます。他はいかがでしょう。森口委員。

（森口委員）

ご説明ありがとうございます。この答申はとてもわかりやすく、こういう人物が育っていかれることを教育委員会は望んでいますし、一般社会も望んでいるだろうというのは非常によくわかりました。子どもたちに働きかけるという意味では、こういった内容は良い

と思いますが、先ほどから他の委員がおっしゃっていたように、これを担う教職員の問題が非常に大きいのではないかと思います。

それともう一点は、やはり有明委員がおっしゃったように、外部との提携というのをもっと商業系高校の特色として出していくということ、この二点について私なりの意見を述べさせていただきたいと思います。まず教職員のことに関しては、竹内委員がおっしゃっていたように、ものすごくたくさんの方を学んでいかななくてはならないが、それが本当に可能なのか。また、現場の先生にそれだけの負担をかけていけるのかというところが、実際に学校の現場をよく見ている者からすれば不安が伴います。そういったあたり、教員のベースとなるものと、それから多様な学校、これは商業系高校には限りませんが、教育委員会としては、多様な学校の在り方というのをいろんな場面で出しておりますので、商業系高校だけではなくて、教職員の資質のベースとなる部分と、その上にオンされる部分というのをしっかりと組み立てて教職員の人材育成を考えていただくのが望ましいと思います。プラスアルファの人材育成に関しては、人事異動等もありますし、教職員の成り手の少なさを考えても、やはり今後、この学校に特徴的な教職員の配置はほぼ無理だということも考えると、どの学校にも必要な教員のベースになるものと、各学校の学びの形に応じて誘導する教職員の資質というものの両方を培っていく必要があります。教職員の流動性という意味では、絶対的にその外部との連携なしでは前に進まないと思います。企業連携、それから企業からのオファーというものもしっかりと受け止めた上で、3番目「外部連携・高大接続」が必要だと思います。

それと同時に竹内委員がおっしゃったように、子どもたちが外に出る時に、どうやって守るのかというお話もありました。大学ではもう既に発達特性の子どもたちの要望に応じて、大学側が様々な形を変えてきています。これは企業連携という意味でも、企業体も非常に様々で、今の子どもたちの様子や、子どもという年齢ではない育成された人材に対する関わり方というのも企業はすごく学んでいますので、やはり大学や企業にとらわれず社会へ出ていった人材がその社会の中でやっていくために、教育委員会としてもフォローアップしていかなければなりません。しっかりと後押ししていくというアウトプットの部分を作っていたらと思っています。教職員の育成と、それから子どもたちを送り出していったときのアウトプットというのを、できるだけ、せつかくの商業系高校ですので、外部との連携という面でも考えていただけたらと思っています。質問というよりは意見ですので、よろしくお願ひいたします。

(教育長)

ありがとうございます。他はいかがでしょう。はい、尾崎委員。

(尾崎委員)

ご説明ありがとうございました。事前のときにもお話をさせていただいたところ、他の委員

とかぶるところもありますが、今までとこれからというところの、今は社会の動向やあり方というところから書いていただいていると思いますが、まず、今、商業高校を選んでいる子たちを置いていかないという観点。商業高校に二つのキャリア教育で関わらせていただきましたが、みんながみんなアクティブに起業するとか、アントレプレナーシップを、というわけではないので、どうやってそういう子たちをそのステップに乗せていくのかというのは、すごく丁寧にしないと、みんながみんな同じではないので、みんなが自分の役割を、というところを強く打ち出しながら、それぞれが自分の役割を社会の中で見つけていければいいなと思っている点が一点です。

そして、これから入学してくる子たちという点でいくと、私の息子が今、中学3年生で高校探しをしています。どんなふうに中学生たちが調べているのかと、私も興味を持って見ているところです。まだ自分が何をやりたいか分からないという段階では、何かわくわくするようなキーワードがないと、商業科にも普通科にも行きたいとも思っていない子どもたちには、選択が難しすぎて自己理解が進んでいないというところと言うと、新しい商業系高校も、もっとキーワードを明確に浮き出させて、中学生たちがワクワクするようなものにして、ぜひこのビジネスをもっと早く経験したいとか、実体験をやりたいというところをアピールしていただくようなPRに繋げていただきたいと思います。以上です。

(教育長)

ご意見ありがとうございます。他はいかがでしょうか。今回は学校教育審議会の答申の報告という形で提示させていただきましたので、今日、教育委員の皆さんから多様なご意見や修正、こういうところは見直した方がいいのではないかという提案も含めていただきましたので、ここからはまさに事務方として、しっかり設計図を変えていくステージになりますので、ぜひ引き続きご意見を頂戴できればありがたいと思っております。

◎報告事項2 大阪府識字・日本語教育の推進に関する基本的な方針の策定について

【議題の趣旨説明（地域教育振興課長）】

標記について、報告する件である。

【質疑応答】

(教育長)

ただいまの説明についてご質問ご意見あわせてお伺いをいたします。中井委員。

(中井委員)

ご説明どうもありがとうございました。私、先日、多文化共生フォーラムに参加させていただいて、本当にいろいろな国からの子どもたち、保護者の方々がおられまして、中学生も来ていて、母語で会話もして、さまざまな情報交換をしていました。その時の様子ですが、

中学生たちはみんな安心感があって、目を輝かせて先輩の話を聞いているという感じでした。ただ一方では、日本語が話せないのです。そういうところを見ていると、やはり、しっかり日本語で情報交換できるようにできれば、もっと素晴らしいことになるのではないかと思います。ここに書いてあることはとても素晴らしいですが、具体的にどうするかという事がいまひとつ分かりません。例えば、今、よく言われるのは夜間中学校です。外国から来た方が日本語を学びに来ています。しかし、そもそも夜間中学校は、そういう場ではありません。でも、そこに外国人の方が来ているので、日本語教育をしているというのが実態かと思います。もう少し夜間中学校におまかせではなくて、大阪府としてこれをどういう形で教育していくのかということが見えるようなものを出してほしいと思います。例えばですが、外国人がたくさんいらっしゃる高等学校で、保護者の方はやはり日本語がなかなか難しいですから、その学校の保護者を放課後に集めて、教育について働きかけるなど、何か具体的なことをしていただければ。書いてあることは素晴らしいので何も反対しません。全部素晴らしいのですけれど、いかにこれを実現していくかというところは少し分かりにくいので、何かありましたら、お知らせいただきたいと思います。以上です。

(教育長)

地域教育振興課長。

(地域教育振興課長)

まず中井委員からお話がありました夜間中学校の位置づけでございますが、夜間中学校は全ての人が言葉を学び主体的に社会参加することを支える場として機能しており、不登校経験のある人や外国籍の人を含む多様な背景のある人の学び場として位置づけているのが夜間中学校です。私どもも識字・日本語教室を、ボランティアの方々を中心にやっていますが、その中では不登校の方もいらっしゃいますし、外国から来られた方もいらっしゃいますし、そのような方々が勉強する場もこの中のひとつとして捉えております。私どももこの方針を作っているところは、識字・日本語教室推進のまず方向性を示すものでありまして、今後いろいろな団体とか関係機関との連携によって様々な取組みを、広がりを持って進めて行きたいと思っています。

(教育長)

他はいかがでしょうか。森口委員。

(森口委員)

ご説明ありがとうございます。中井委員と同じで非常に素晴らしい内容ですので特段反対などはないのですが、この「各主体に期待される役割」というところで、国・市町村もちろんそうなのですが、こういった国際交流協会とか関係団体、また事業主などに「お願いしま

す」ではなくて「具体的にこういうことをやっていただけたら大変ありがたいです」という書きぶりであれば、前に進みやすいのではないかと思いますので、現状、具体的にこういうことを協力団体としてお願いして行こうというような具体例がありましたら、教えていただけたらと思います。よろしくお願いします。

（教育長）

地域教育振興課長。

（地域教育振興課長）

外国人の労働者の方などの日本語教育につきましては、会社側には義務がありません。例えば小規模の企業だと、一人、二人の外国人の労働者が来られたときに、会社の中でなかなか日本語の教育ができないということで、市町村で実施している日本語教室等へ行って勉強して来なさいと送り出しているのが実情です。私どもも経済団体等ともお話をさせていただきました。一部企業には、これからどのように進めて行けば良いのだろうかと話にのってきていただいているところもございます。これから日本の企業活動に外国人の労働者の方が入ってきてご活躍いただくというときに、やはりコミュニケーションが大事でありますので、その辺りはこれから時代の流れとともに進んでいくのではないかと考えております。

（森口委員）

ありがとうございます。ぜひ積極的に具体的な言葉を使いながら進めていただければと思います。ありがとうございました。

（教育長）

他の委員の皆様はいかがでしょうか。よろしいでしょうか。
それではこの件については終了いたします。

7 次回の教育委員会会議の予定について

（教育長）

次回の教育委員会会議の日程につきまして、事務局からお願いいたします。

（事務局）

次回会議は8月31日、月曜日14時からの予定です。

（教育長）

それでは本日の会議を終了いたします。皆様お疲れ様でした。

以上